

2015年度 決算説明会

2016年4月8日
株式会社ファミリーマート

あなたと、コンビニに。
FamilyMart

2015年度 レビュー

連結			
	単位：億円、%		
	2014年度実績	2015年度実績	前期比
営業総収入	3,744	4,276	114.2%
営業利益	404	487	120.6%
経常利益	425	518	122.0%
当期純利益	256	210	82.1%

単体			
	単位：億円、%		
	2014年度実績	2015年度実績	前期比
チェーン全店売上高	18,601	20,055	107.8%
営業総収入	3,019	3,258	107.9%
販売費及び一般管理費	2,198	2,319	105.5%
営業利益	340	416	122.6%
経常利益	371	455	122.6%
当期純利益	286	170	59.6%

営業数値概況			
	※店舗数は、国内AFC・TOMONYを含む。		
	2014年度実績	2015年度実績	前期差
全店平均日商(千円)	508	516	8
既存店日商伸び率(%)	97.8	101.3	-
全店客数(人)	914	914	0
全店客単価(円)	556	565	9
差益率(%)	27.80	27.68	△0.12
新設店日商(千円)	424	480	56
国内純増数(店)	781	328	△453
出店数(店)	1,120	765	△355
閉鎖数(店)	339	437	98

■連結・単体共に、営業総収入・営業利益・経常利益は過去最高

■年間配当金：110円(+4円)

店舗数 ※TOMONYを含む。									
(株)ファミリーマート	2014年度実績		2015年度実績		前年差			国内外合計	前年差
		10,514	10,834	320				17,502	532
【国内】	プロパー		沖縄			国内計	前年差		
	10,834		269						
	南九州	北海道	JR九州リテール				11,656	328	
【海外】	台湾	タイ	中国・上海	中国・広州	中国・蘇州	中国・杭州	中国・成都	海外計	前年差
	2,985	1,109	980	185	135	76	53		
	中国・深圳	中国・無錫	中国・北京	中国・東莞	ベトナム	インドネシア	フィリピン		
	32	44	14	11	87	27	108	5,846	204

※中国：1,530店舗

■国内CVS事業

・中期経営計画の初年度

「Fun&Fresh」を掲げ、新たな次世代CVS像を構築

・商品面：中食構造改革の成果により、中食既存比は前年超え

・営業面：SQCLレベルの向上、中食ボリュームの抜本的な改革

・開発面：1万店を超えるチェーンとして健全に成長していくための出店

■海外CVS事業

・台湾：中食構造改革を推進し、計画を達成

・中国：黒字幅が拡大、利益計画を大幅超過

・タイ：執行体制刷新、日商・客数改善の兆し

・新地域：店舗数が拡大、売上高が伸長

■新規事業

・電子マネー「Tマネー」や海外金融機関発行のクレジットカード全国展開

2016年度数値計画

2016年度経営計画の考え方

■国内CVS事業

中期経営計画2年目は、業界No.1を目指すための基盤作り

- 商品面 『中食構造改革を更に磨きをかけ、好循環を回す』
 - 温度帯別工場の整備、工場内への最新鋭設備導入
 - サプライチェーンマネジメントの進化
 - TVCM放映や大型販促キャンペーンを継続
- CRM ファミマTカード会員の獲得強化、利用率向上促進
- 営業面 『品質No.1チェーンを目指す』
 - お客様ファーストの店舗づくり、売場品質の革新
- 店舗開発面
 - 出店判断のスピードアップ
 - ビルド&スクラップ、一体型店舗の出店強化

■海外CVS事業

『アジアを軸に展開スピードを加速』

- 台湾・中国における安定的な収益の確保
- タイ・フィリピンの収益改善

■新規事業

- 「医療・介護・健康」、「金融」、「ネットビジネス」、「宅配」「インバウンド」需要の取り込み
- 日本郵政株式会社との基本合意書締結
 - 日本郵便 「越境eコマース」サービス
宅配ロッカー「はこぼす」の設置
 - ゆうちょ銀行「ゆうちょATM」の導入拡大

■ 2016年度連結・単体ともに営業利益、経常利益最高益を計画
年間配当金は、12期連続増配の1株あたり112円(+2円)

2016年度 数値計画

連結		単位：億円、%		
	2015年度 実績	2016年度 計画	前期比	
営業総収入	4,276	4,103	95.9%	
営業利益	487	500	102.6%	
経常利益	518	525	101.2%	
当期純利益	210	220	104.4%	
総資産	7,302	7,700	105.5%	
純資産	2,952	3,100	105.0%	

単体		単位：億円、%		
	2015年度 実績	2016年度 計画	前期比	
チェーン全店売上高	20,055	21,014	104.8%	
営業総収入	3,258	3,298	101.2%	
販売費及び一般管理費	2,319	2,446	105.4%	
営業利益	416	422	101.3%	
経常利益	455	456	100.1%	
当期純利益	170	190	111.1%	

営業数値概況		※店舗数は、国内AFC・TOMONYを含む。		
	2015年度 実績	2016年度 計画	前期差	
全店平均日商(千円)	516	525	9	
既存店日商伸び率(%)	101.3	101.5	-	
差益率(%)	27.68	28.30	0.62	
新設店日商(千円)	480	490	10	
国内純増数(店)	328	741	413	
出店数(店)	765	1,200	435	
閉鎖数(店)	437	459	22	

—注意事項— ・2016年9月1日付でユニーグループ・ホールディングス株式会社と経営統合を予定しておりますが、本日公表の業績予想には織り込んでおりません。
・本資料の記述には、当社の将来の業績等に関する見通しが含まれていますが、これらは現在入手可能な情報から得られた当社経営陣の判断に基づいています。
実際の業績等は、経済の動向、当社を取り巻く事業環境等の様々な要因により、これらの見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

ユニーグループ・ホールディングスとの経営統合について

経営統合について

【基本方針】

- **GMS/SM事業やCVS事業が持つ事業基盤を活用し、シナジー効果の最大化**
- **新たな事業モデルを構築することで収益拡大**
- **経営効率の観点から低効率資産を整理、会計措置を施す**
- **GMS/SM事業**
 - 中部地区での圧倒的なドミナント
 - 新たな事業モデルの構築
- **CVS事業**
 - 規模の拡大、質の充実
 - トップチェーンを目指す
- **新ホールディングス**
 - 投資効率を意識した各事業への資源配分

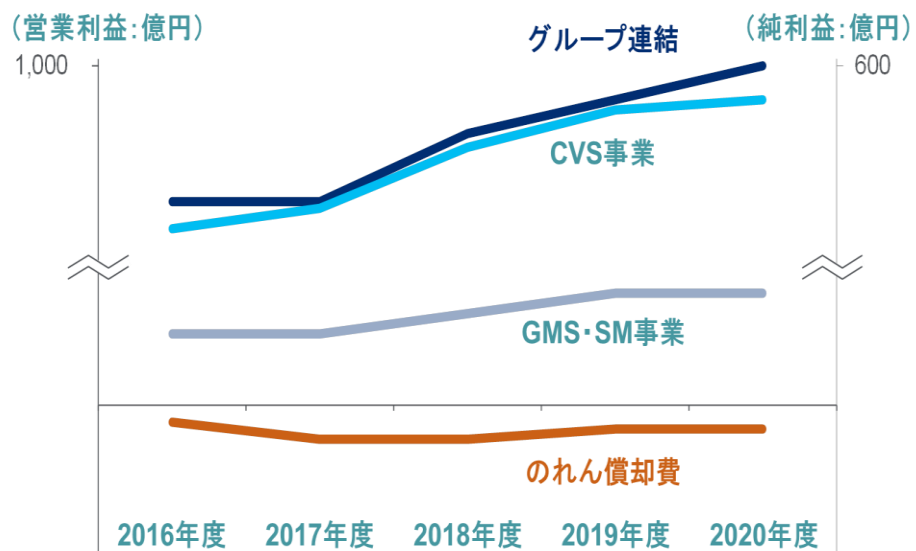
【GMS/SM事業】

- **消費者の嗜好の変化に応えられる業態に変更**
- **食品売場**
 - 食料品を強化、粗利の改善
- **食品売場以外**
 - 自主売場の縮小
 - 有力テナントの誘致・拡大

【CVS事業】

- **中食構造改革や物流効率化を推進**
- **三大都市圏で質・量ともにNo. 1チェーンになる**
- **三大都市圏での躍進を全国に向けて波及**
- **統合後2年半でブランド統合を完遂**

統合後の利益成長イメージ



- **2020年度営業利益1,000億円以上、当期純利益600億円以上、ROE12%以上を目指す**